
Toxigenic C. Difficile DNA

検体作成手順

この検体作成手順は次の検査に共通します：

Toxigenic C. Difficile DNA、カルプロテクチン、エラスターゼ、H.ピロリ、ラクトフェリン、ライソザイム、分泌性IgA。

<検査を始める前に>

この検体作成手順をよく読み、採取手順をよく理解してください。抗菌治療・抗生物質治療を行っている場合、治療が終わり3日経たないと検体作成は始められません。医師の指示がない限り、消化酵素、制酸薬、アスピリンの服用を検体作成の2日前より、また検体採取期間中は中止します。医師への相談なしに処方薬の服用の中止はなさないで下さい。

<キットの使用期限>

検査キットには使用期限があります。使用期限は検査キット外箱側面の検査名称の下に、“Expires:”として示されています。この期限内にラボでの分析が可能となるように使用ください。期限の切れているキットは使用されずに、新たな期限内のキットをご用命ください。

<キットの中身の確認>

- ◆ 検査申込書 (INTERNATIONAL REQUISITION FORM) 1 枚
- ◆ 保冷剤 1 個
- ◆ 便採取用の紙受け皿 1 個
- ◆ 白色ふたのチューブ 1 本
- ◆ 使い捨てグローブ 1 組
- ◆ ジップロックバッグと吸収性のパッド 1 枚
- ◆ FedEx 送り状 (Air Waybill) 1 枚
- ◆ FedEx UN3373 Pak..... 1 枚 (検体発送時のビニール製封筒です)
- ◆ インボイス (CUSTOMS INVOICE) 3 枚
- ◆ FedEx 検体発送方法 1 枚

➡ キットに不足品があった場合、下記までご連絡ください。

デトックス Tel:03-5876-4511

検体作成手順

➡ キットの外箱は郵送の際に使用しますので、破棄しないようお願いします。また吸収性のパッドはジップロックバッグの中に入れてまますべてください。吸収性のパッドは白色ふたのチューブの中には入れないでください。

<検体の作成方法>

1. 便採取用の紙受け皿に便を採取します。受け皿に尿や水などが混入しないようにご注意ください。
2. 白色ふたのチューブのふたを開け、ふたについたスプーンを使い便の検体をチューブに移し入れてください。受け皿にとった便の様々な箇所から移し入れてください。チューブに書かれた『fill line』(およそ半分)まで検体を移し入れてください、入れすぎには注意してください。採取が終わりましたら、ふたを固く閉めます(移し入れる際、便検体がチューブの奥から詰めるようにしてください)。
3. 白色ふたのチューブに被験者情報として名前と検体採取日(Collect Date)、生年月日(D.O.B.)を英語表記で記入してください(ID#の欄には何も記入しません)。チューブへの被験者情報の記入がなされていない検体は分析がなされません。
4. 白色ふたのチューブをジップロックバッグに入れ、くちをしめます。保冷剤をジップロックバッグのポケットに入れます。白色ふたのチューブと保冷剤を入れたジップロックバッグをしっかりと凍るまで冷凍庫に入れます(通常およそ6時間かかります)。
5. 凍った白色ふたのチューブと保冷剤の入ったジップロックバッグを冷凍庫から出し、キットの外箱に入れます。
6. 検査申込用紙に必要事項(3. Test(s) Ordered 中の必要事項、そして 4. Patient Information(患者情報)中の全ての情報)を全て記入してください。また担当医の署名があることを確認してください。検査申込用紙が正しく記入されていないと検査はプロセスされません。記入が終わりましたら、検査申込書を検体とともにキットの外箱に入れてください。

これで検体発送の準備が整いました。

別紙の FedEx 検体発送方法にしたがって発送してください。

最良の検査結果を得るためにも、ラボはできる限り早い検体の発送を推奨しています。週末や祝日など、採取したその日に検体を発送できない場合は、発送まで検体を冷凍してください。